

価値観・ライフスタイルの変化

1992年から2002年の意識の動き
博報堂生活総合研究所所長・東京経済大学教授 関沢英彦

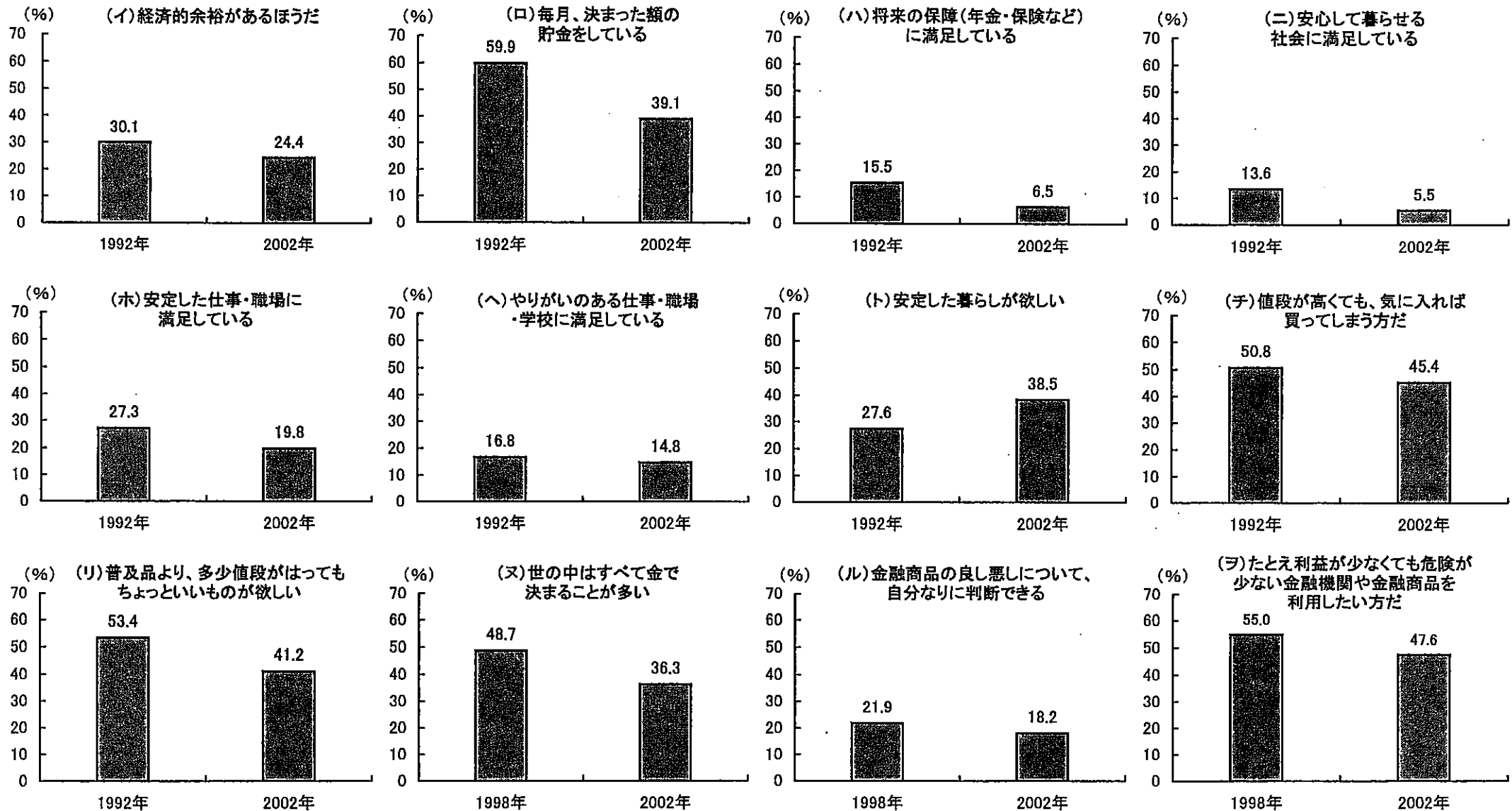
- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 経済環境の悪化による意識変化 | 9. 個人の力を重視 |
| 2. 否定的感情の増加 | 10. 異質な存在の受容 |
| 3. 日本への自信の喪失 | 11. 職場秩序の遵守 |
| 4. マクロ環境への関心の高まり | 12. 情報処理の高速化 |
| 5. 国内優先の動き | 13. 高速変化への反動 |
| 6. 社会性の高まり | 14. 環境への意識 |
| 7. 暗いばかりでない生活 | 15. 今後の日本について |
| 8. 人間関係の希薄化 | (参考データ)「優先したい未来調査」 |

(出典) 博報堂生活総合研究所「生活定点調査」首都圏阪神圏2000人(有効回収数)・隔年調査・訪問留置き法

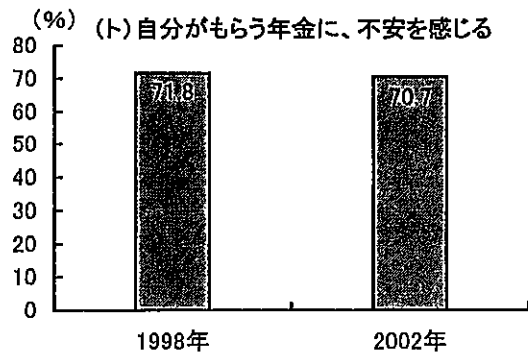
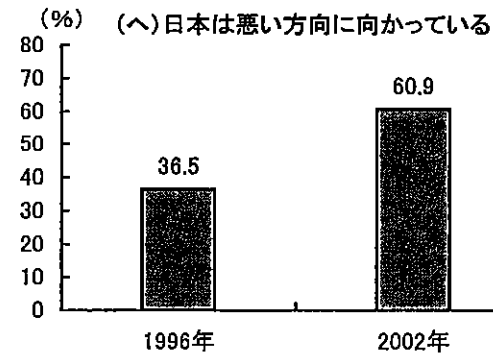
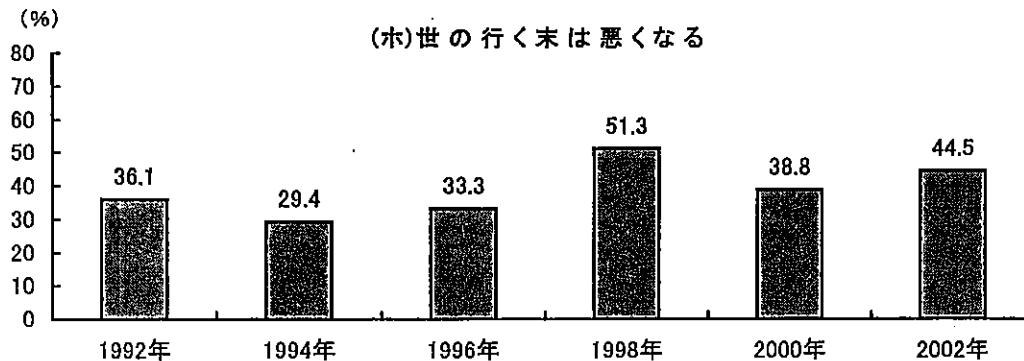
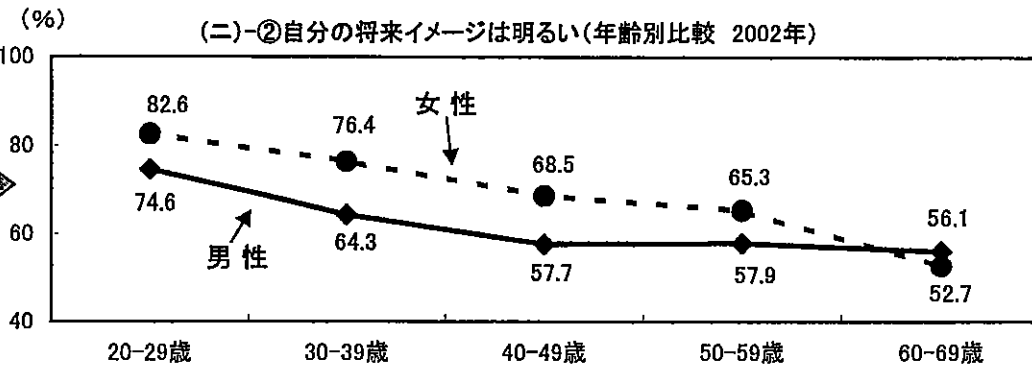
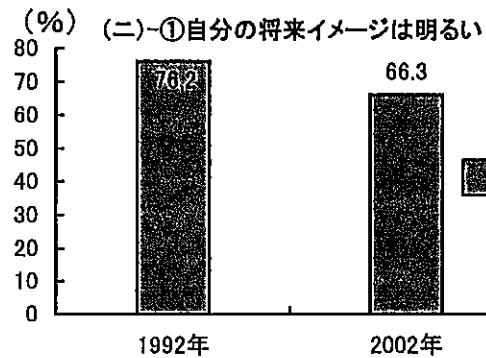
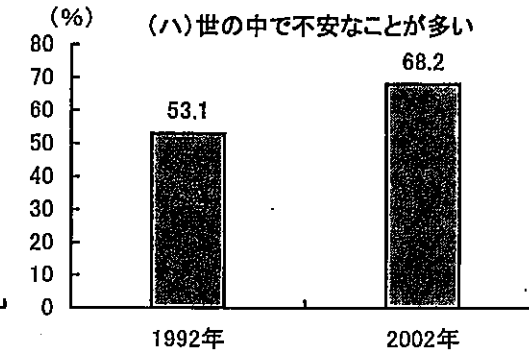
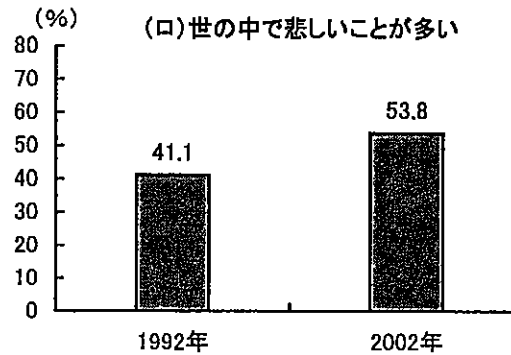
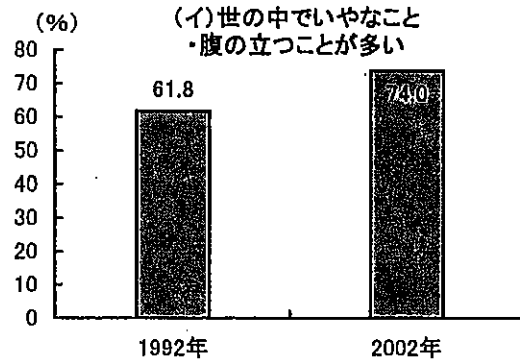
「優先したい未来調査」については、博報堂生活総合研究所調べ 18歳～69歳・首都圏389人(有効回収数) 2003年9月・郵送法

1. 経済環境の悪化による意識変化（1992年⇒2002年）

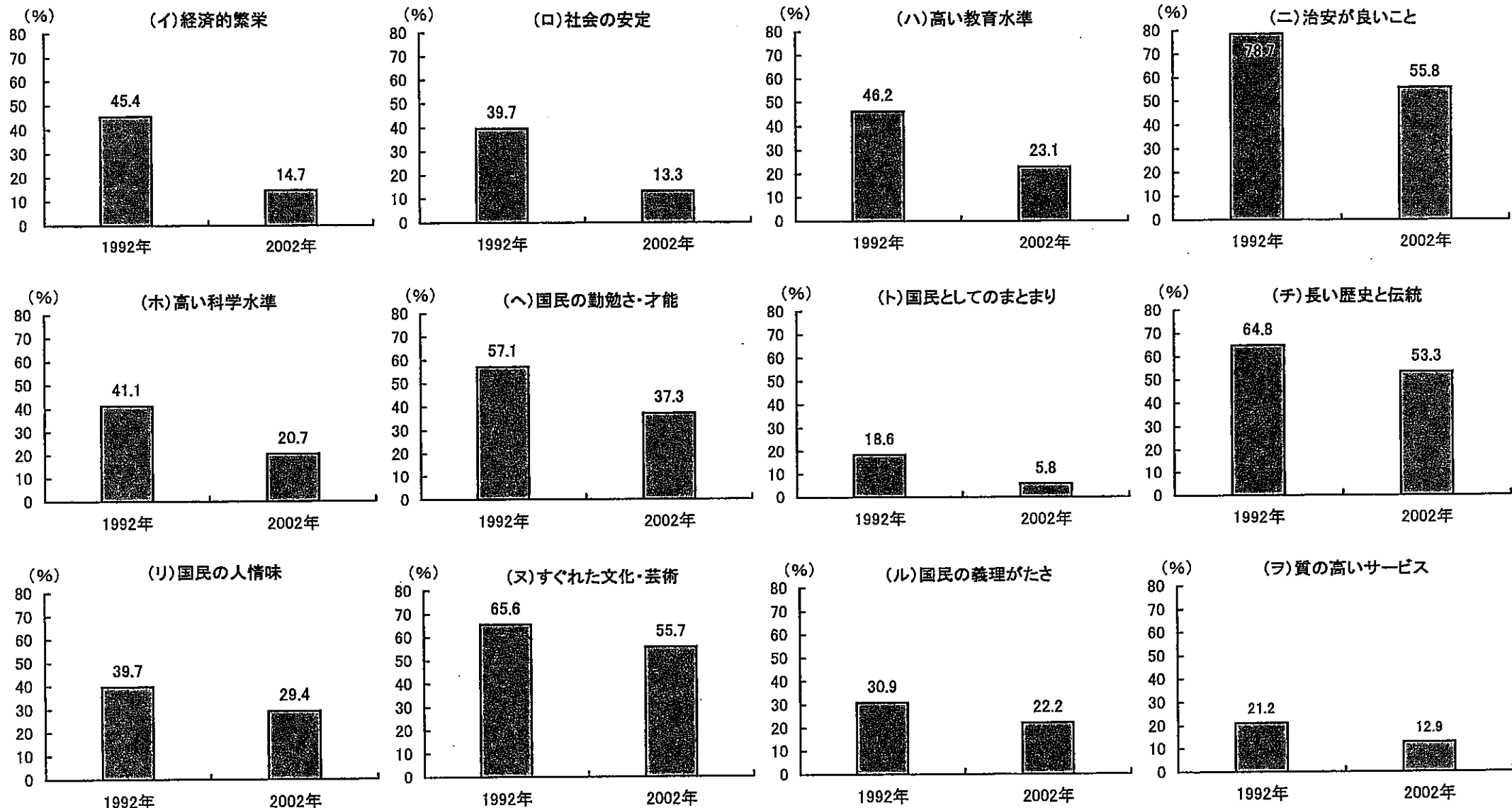
*一部のグラフについてはデータの制約により1992年でないものがある。



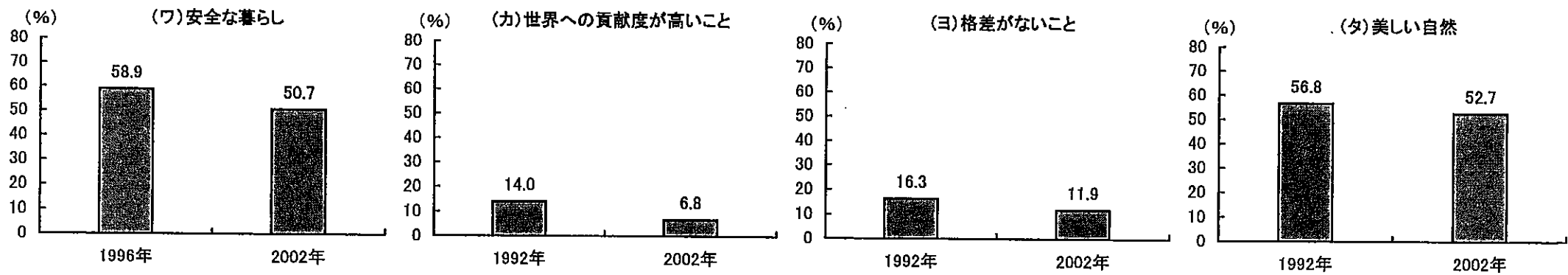
2. 否定的感情の増加 (1992⇒2002年)



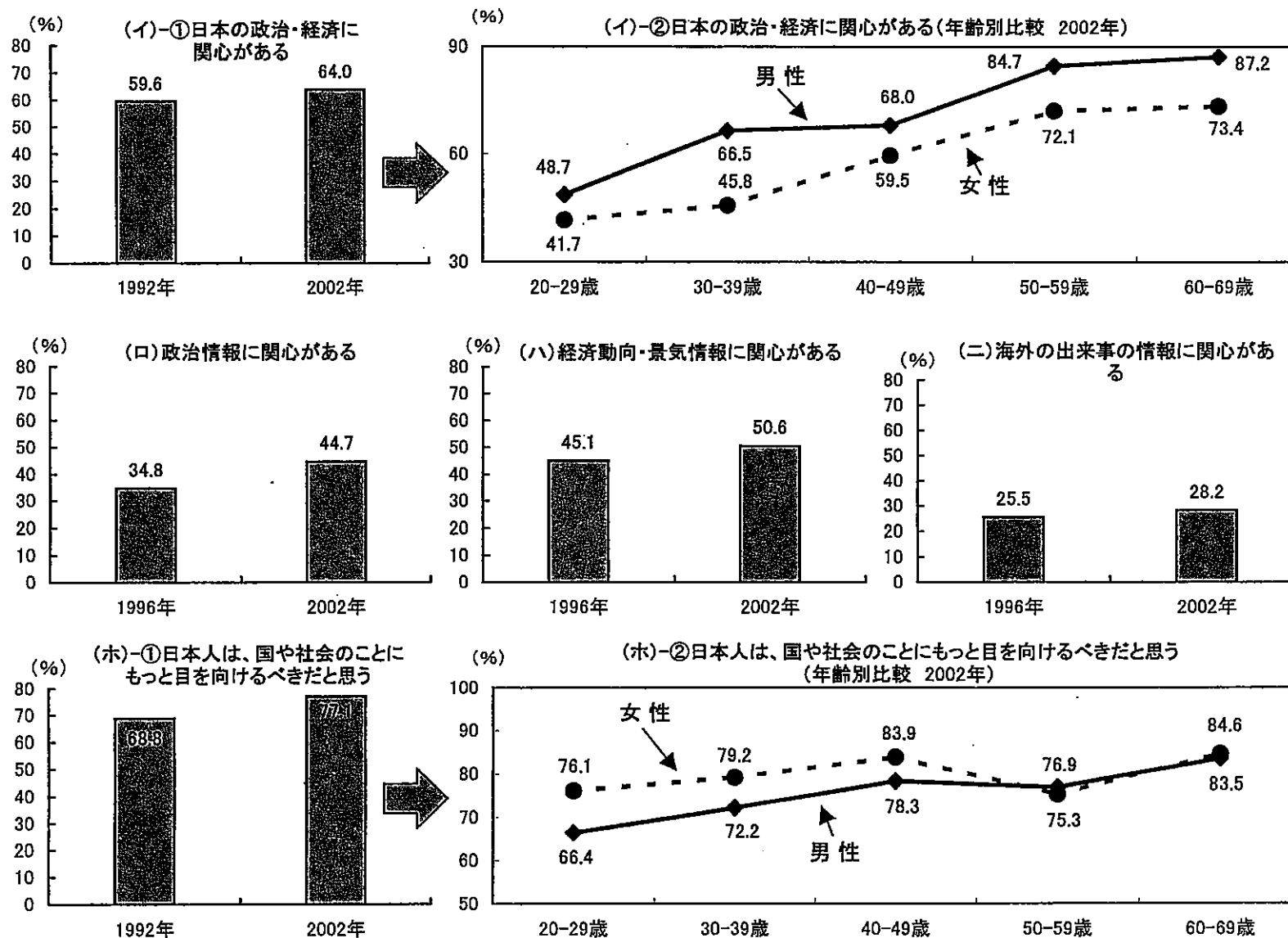
3. 日本への自信の喪失(1992年⇒2002年)～その1 (「日本を誇りである」と思う率)



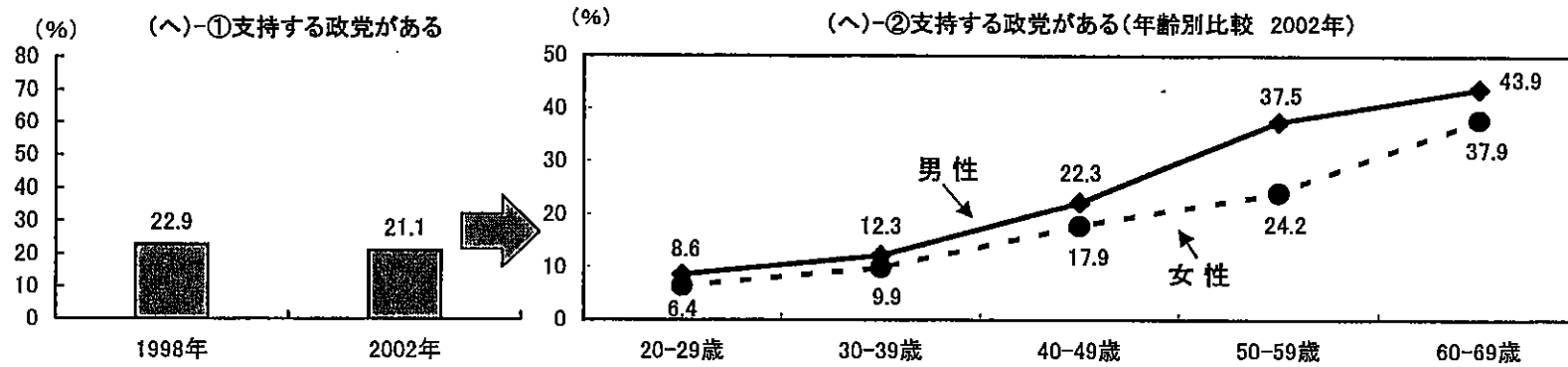
3. 日本への自信の喪失(1992年⇒2002年)～その2 (「日本を誇りである」と思う率)



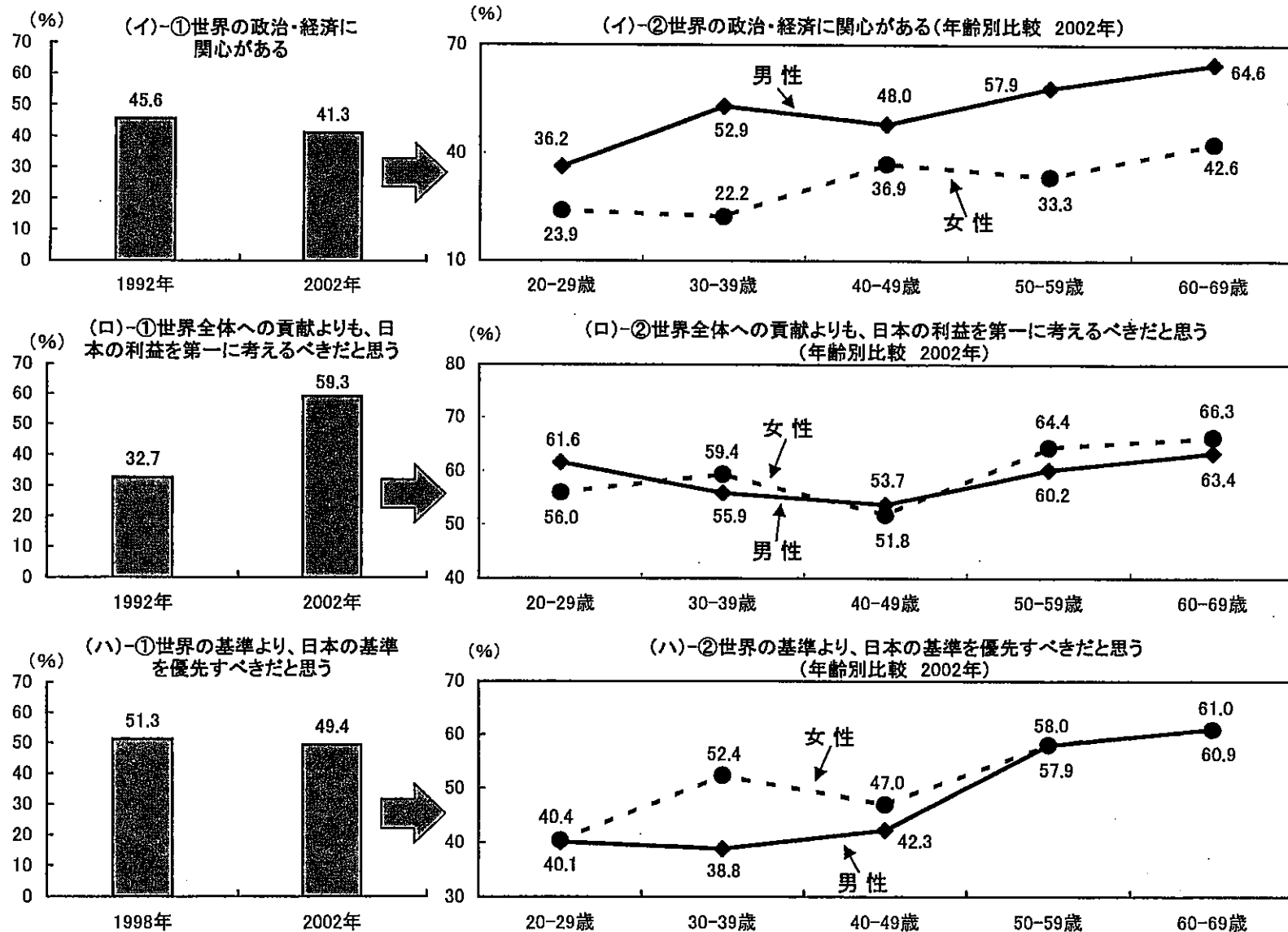
4. マクロ環境への関心の高まり（1992年⇒2002年）～ その1



4. マクロ環境への関心の高まり（1992年⇒2002年）～ その2

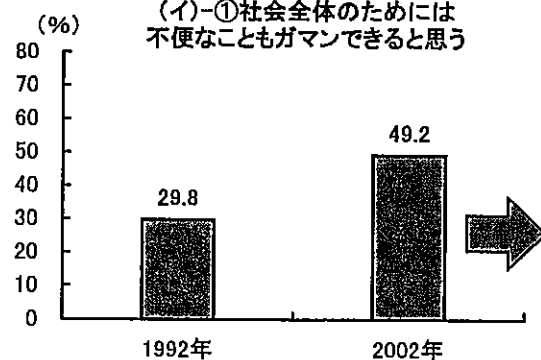


5. 国内優先の動き (1992年⇒2002年)

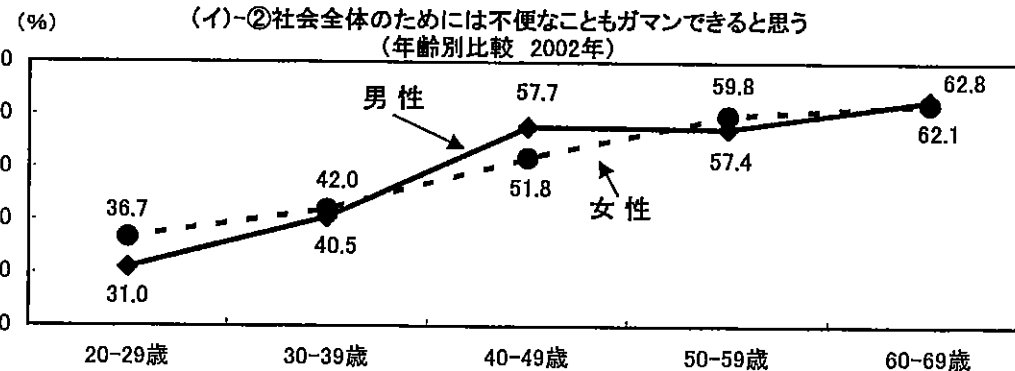


6. 社会性の高まり (1992年⇒2002年)

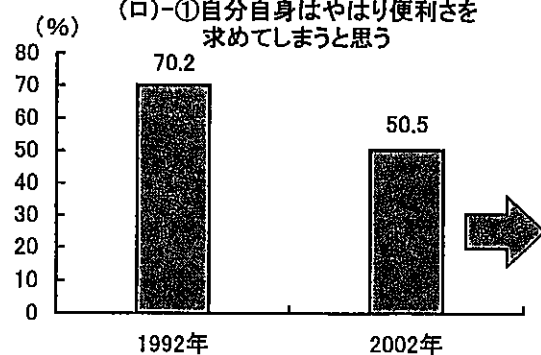
(イ)-①社会全体のためには不便なこともガマンできると思う



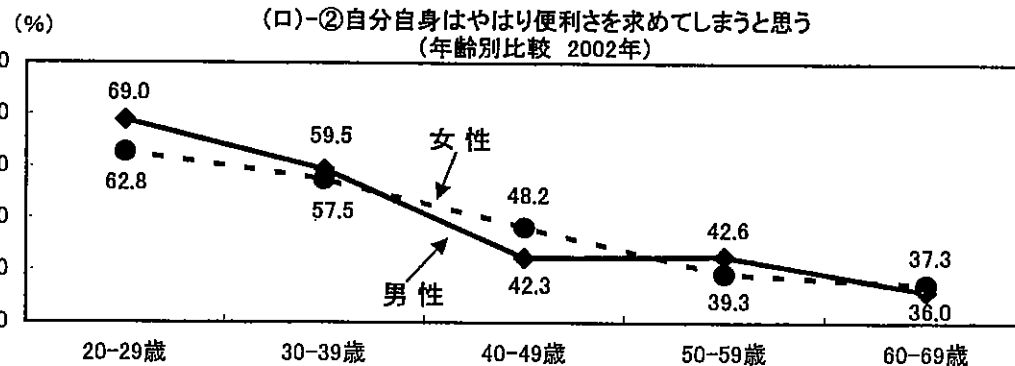
(イ)-②社会全体のためには不便なこともガマンできると思う (年齢別比較 2002年)



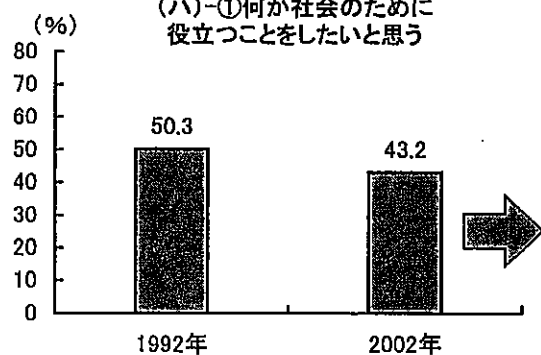
(ロ)-①自分自身はやはり便利さを求めていると思う



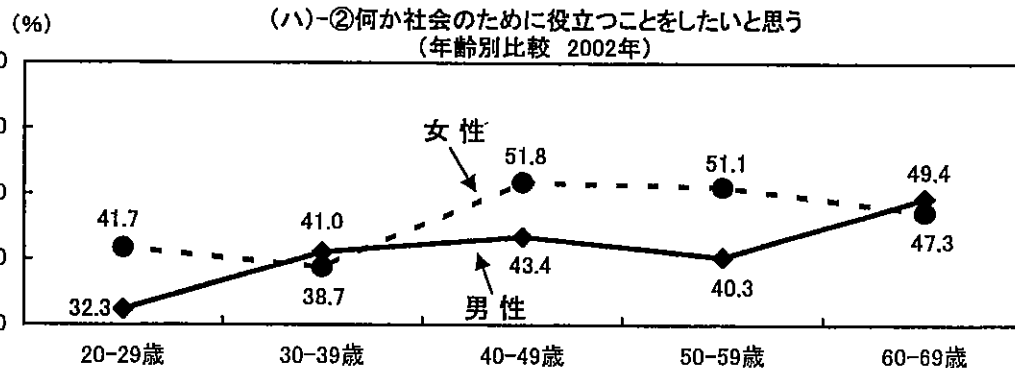
(ロ)-②自分自身はやはり便利さを求めていると思う (年齢別比較 2002年)



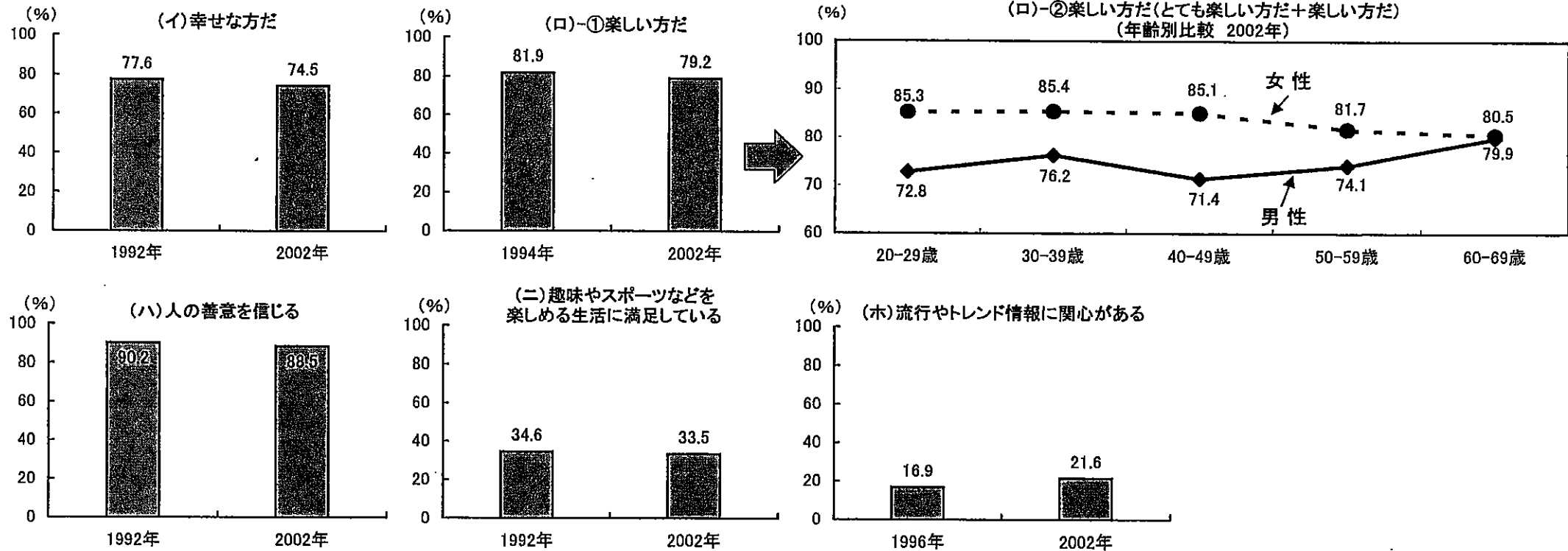
(ハ)-①何か社会のために役立つことをしたいと思う



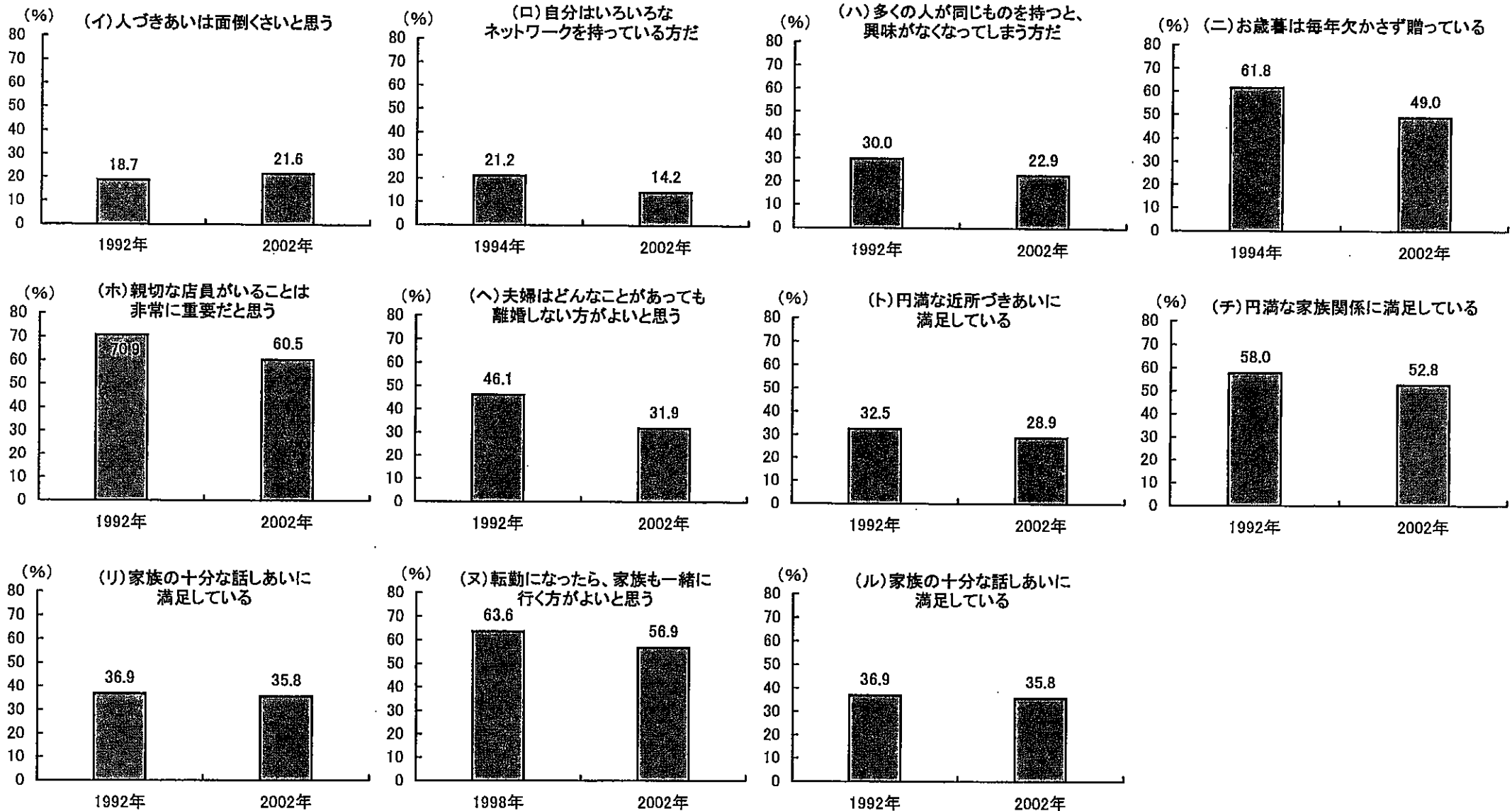
(ハ)-②何か社会のために役立つことをしたいと思う (年齢別比較 2002年)



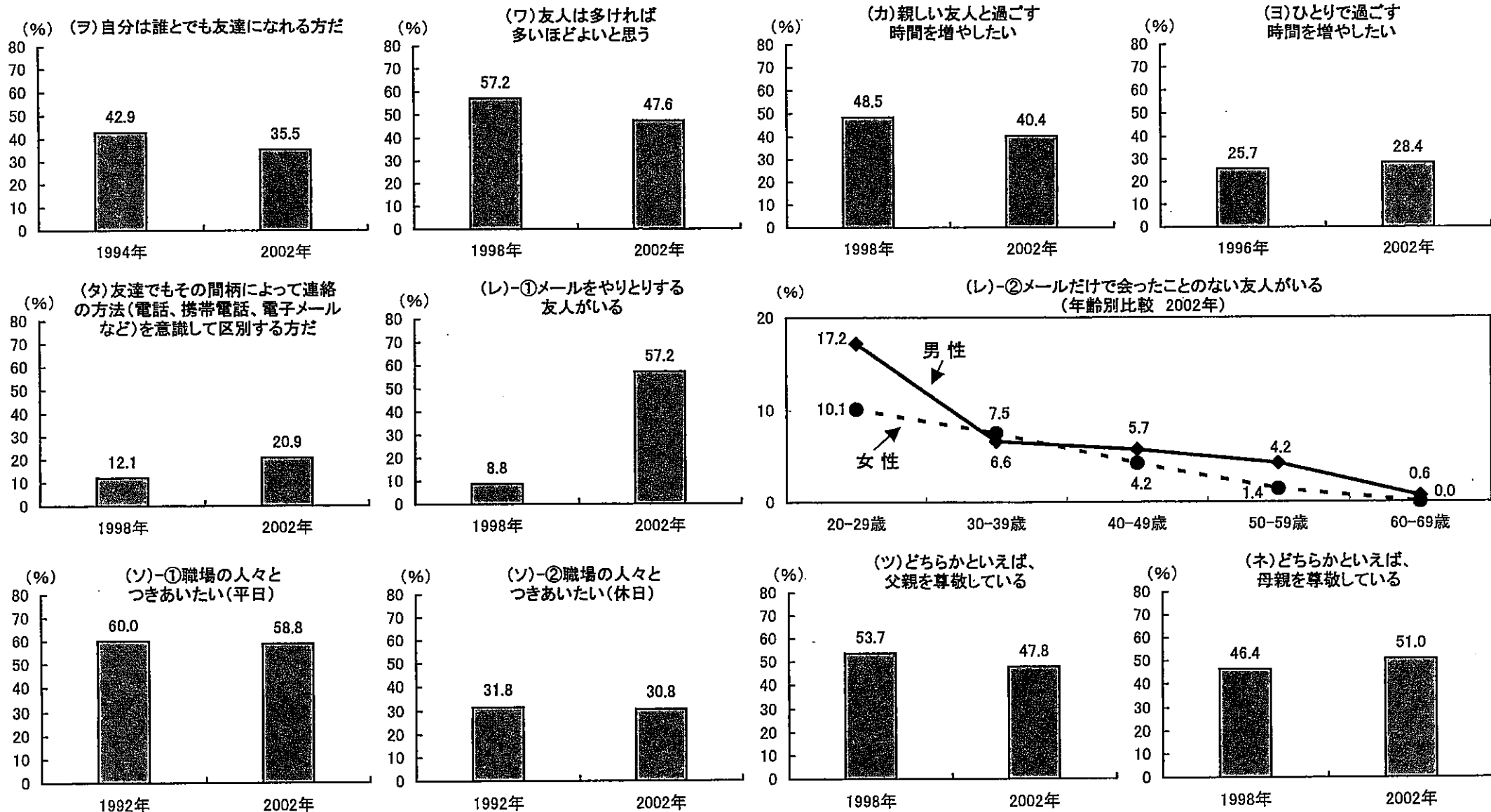
7. 暗いばかりでない生活（1992年⇒2002年）



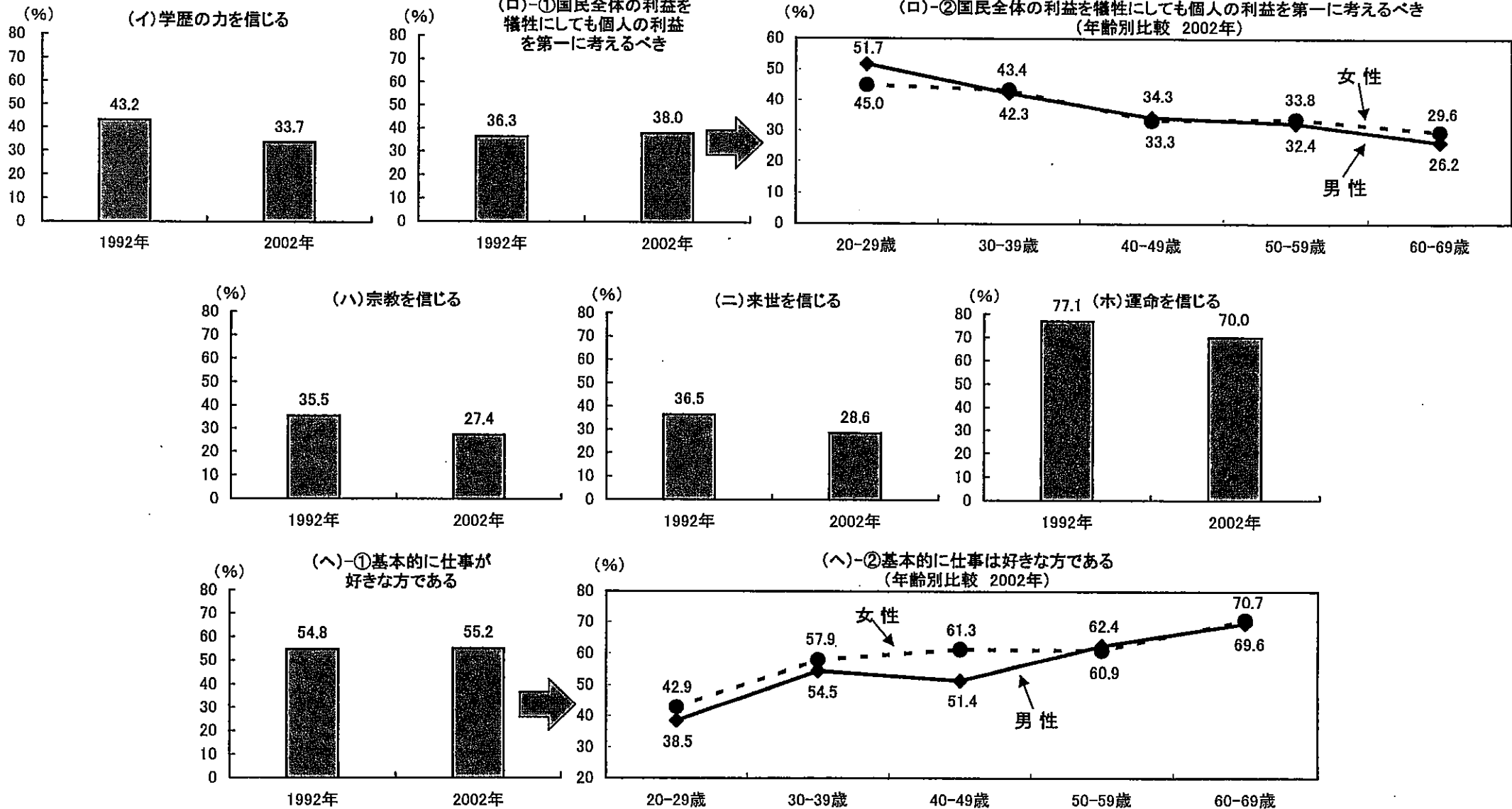
8. 人間関係の希薄化（1992年⇒2002年）～ その1



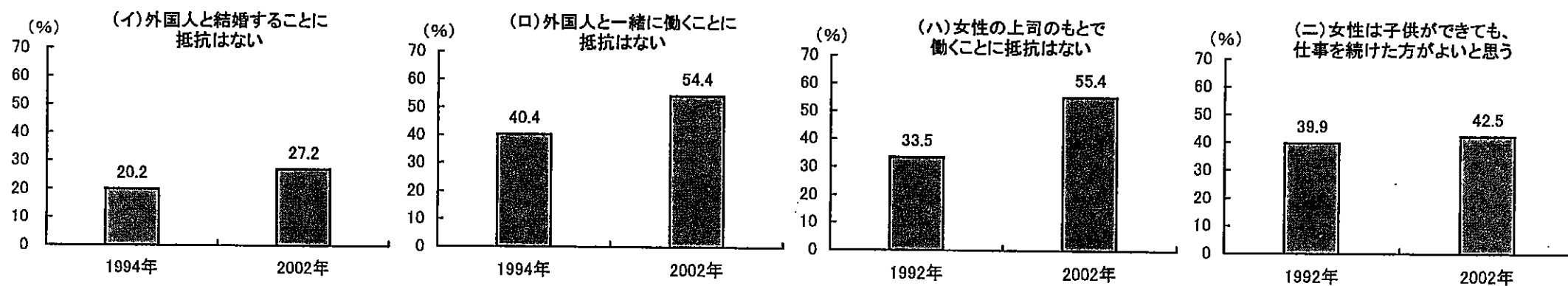
8. 人間関係の希薄化（1992年⇒2002年）～ その2



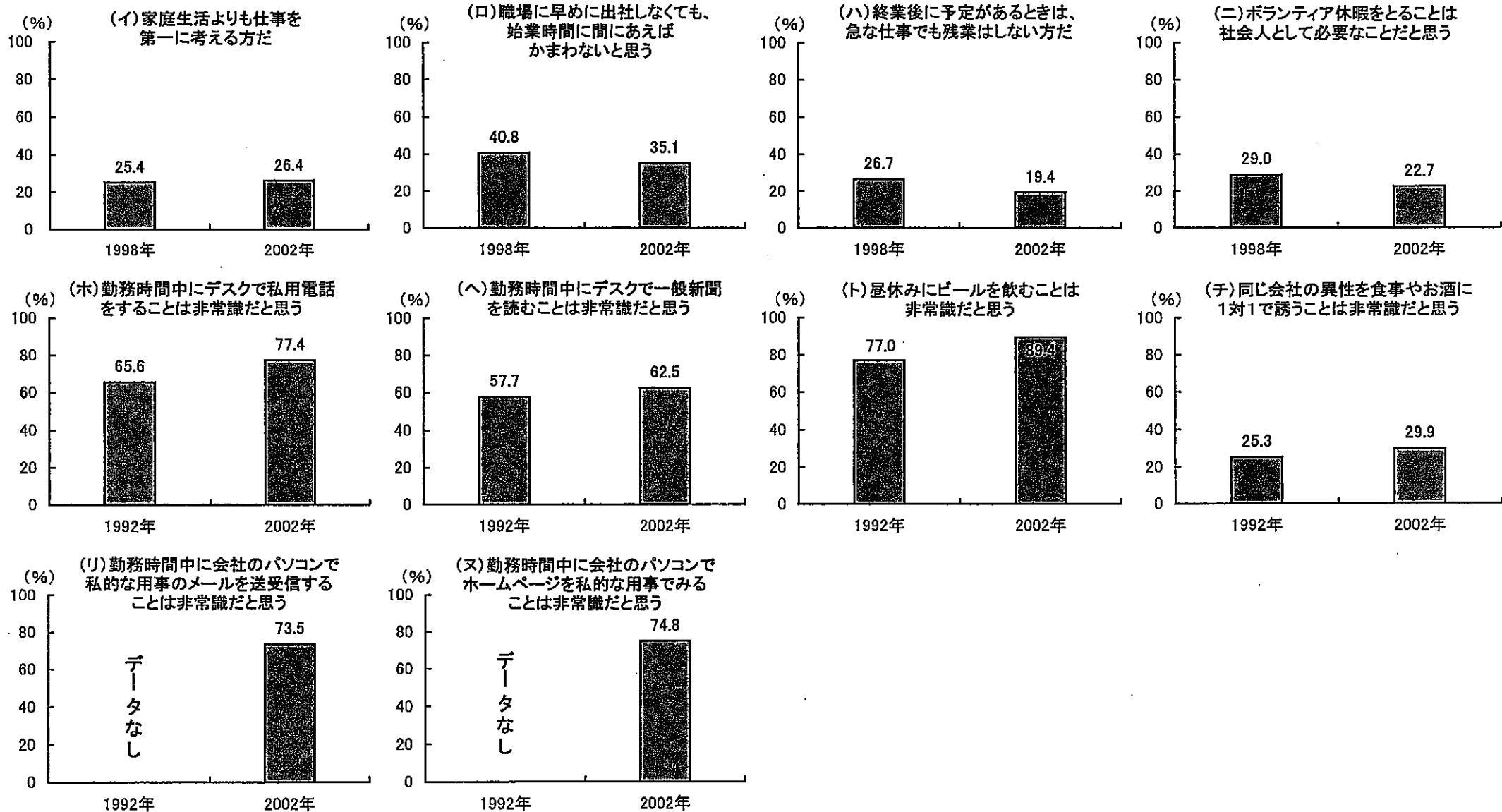
9. 個人の力を重視 (1992年⇒2002年)



10. 異質な存在の受容（1992年⇒2002年）

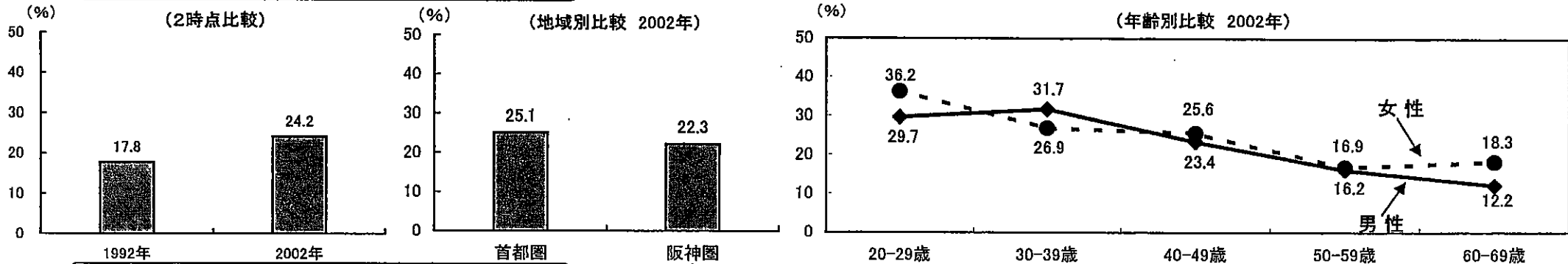


11. 職場秩序の遵守 (1992年⇒2002年)

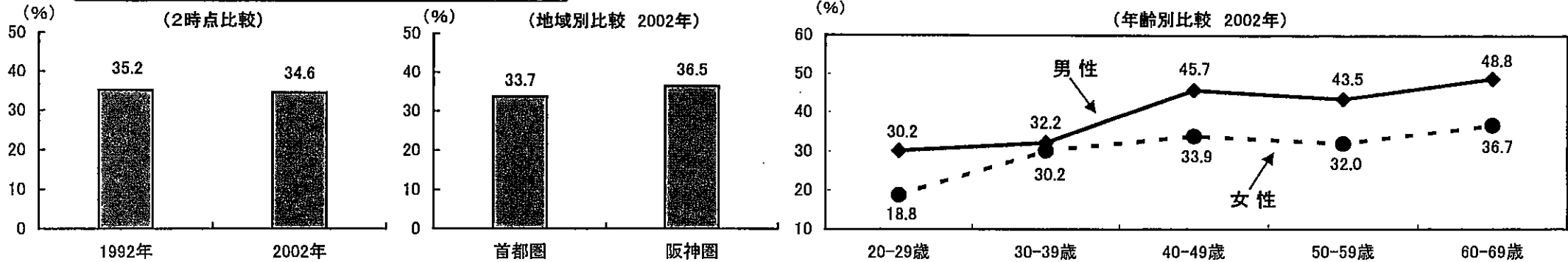


12. 情報処理の高速化（1992年⇒2002年）～ その1

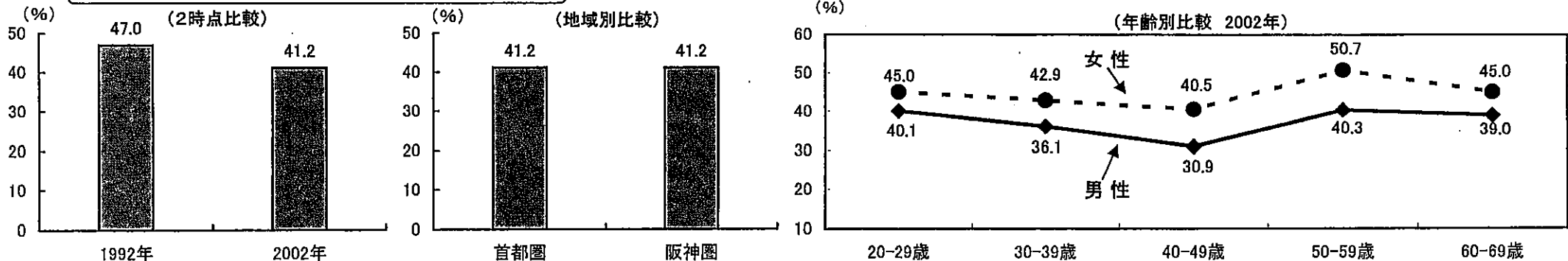
(イ) ピンとくる、こないといった感覚で判断する



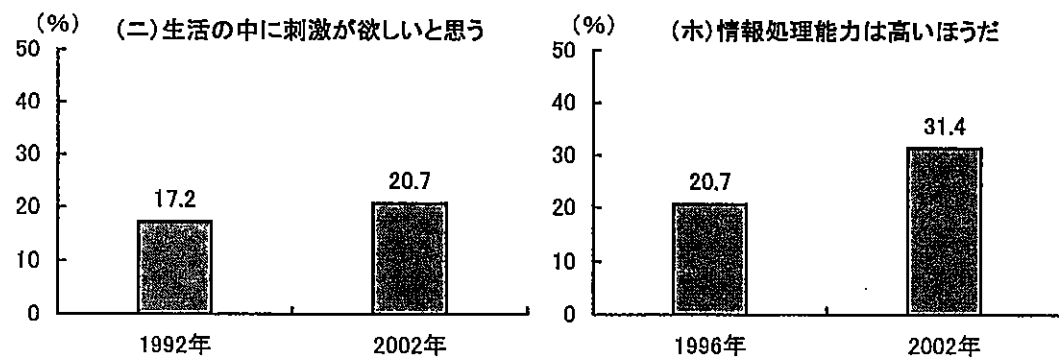
(ロ) 一般的に考えて良い悪いという理性で判断する



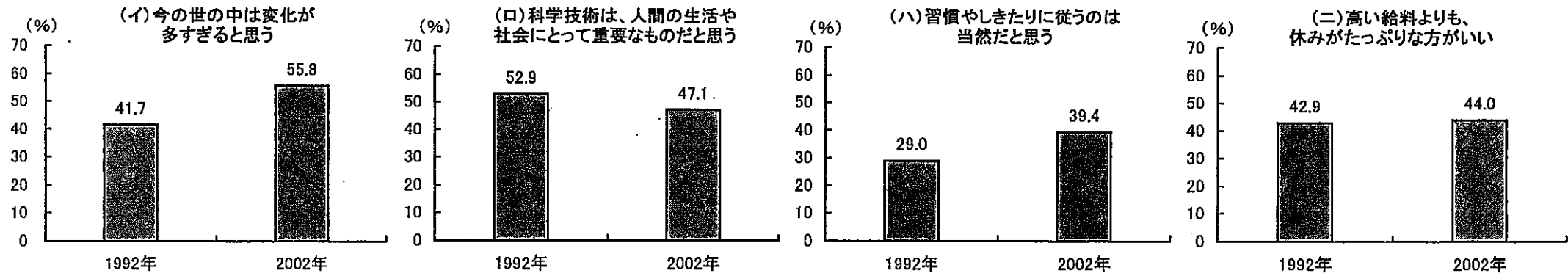
(ハ) 好き嫌いという自分の好みで判断する



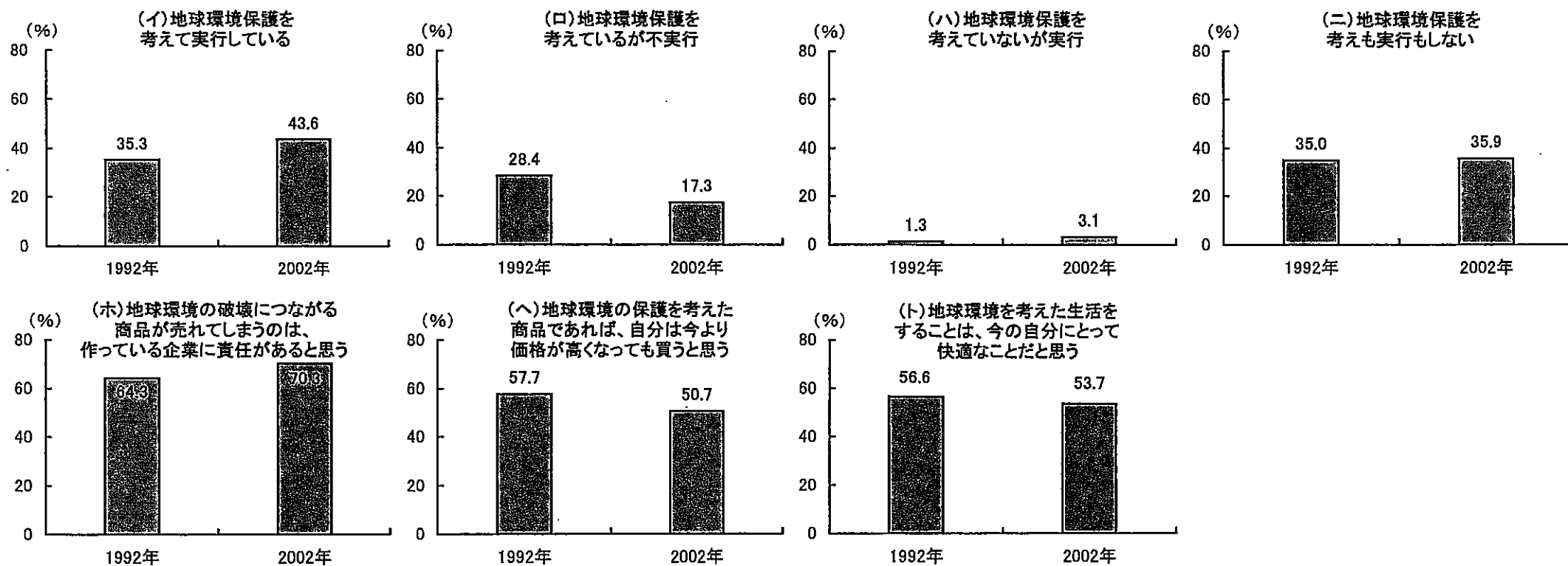
12. 情報処理の高速化（1992年⇒2002年）～ その2



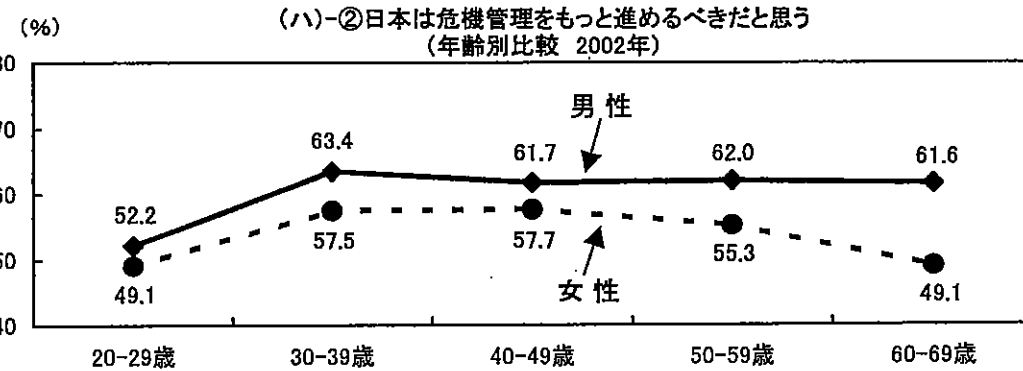
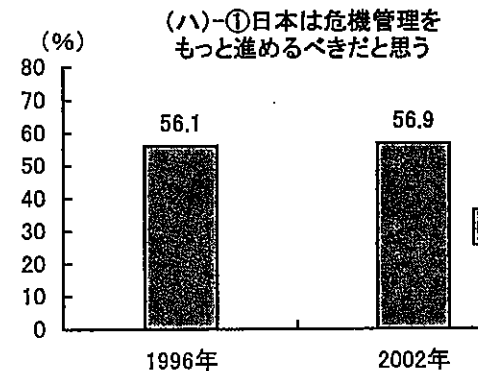
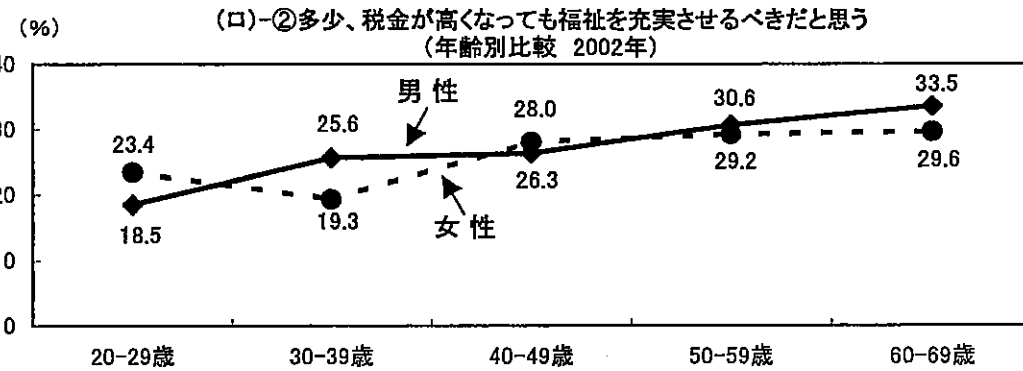
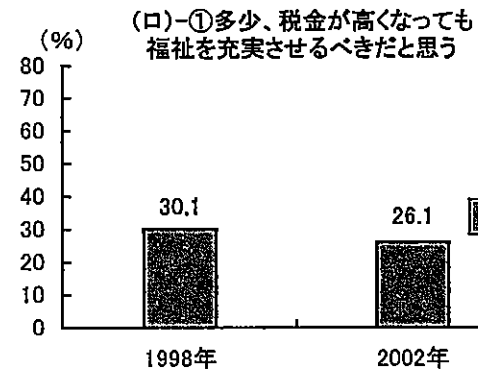
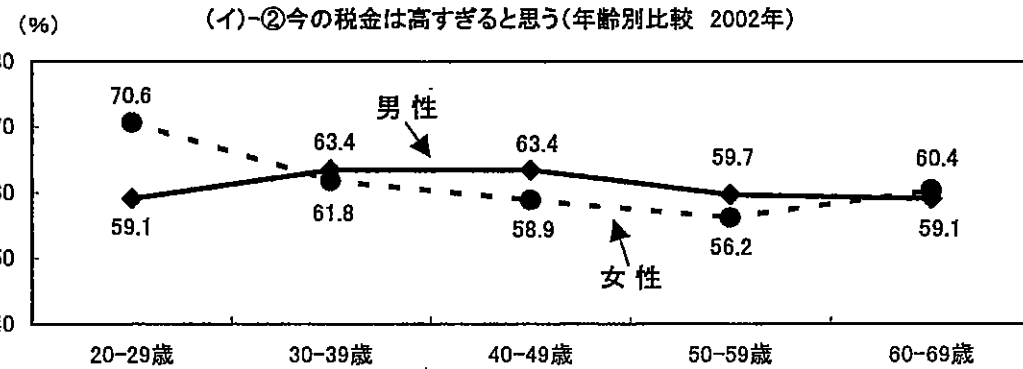
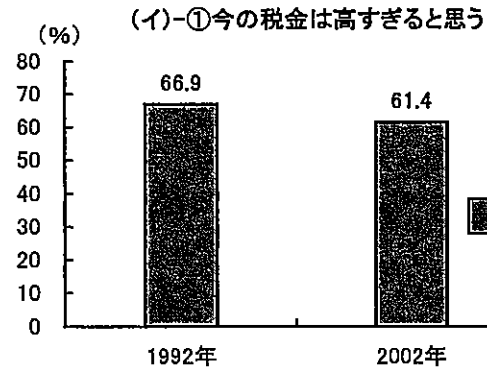
13. 高速変化への反動（1992年⇒2002年）



14. 環境への意識 (1992年⇒2002年)

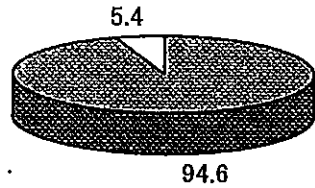


15. 今後の日本について (1992年⇒2002年)

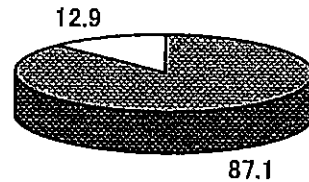


「優先したい未来調査」(2003年9月)

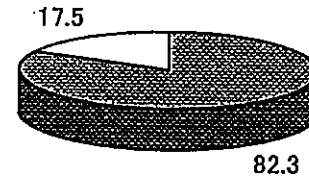
(単位: %)



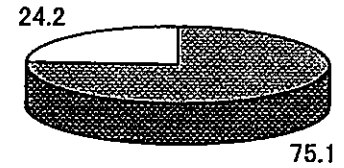
■ 企業よりも、生活者が主役の未来
□ 生活者よりも、企業が主役の未来



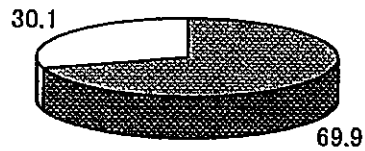
■ ひとつのものを修理して長く使う未来
□ 新しいものを次々に買い替える未来



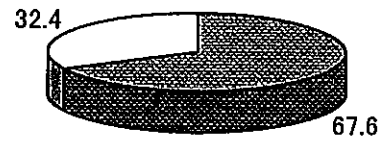
■ 変化の少ない落ち着いた未来
□ 激しく変化する未来



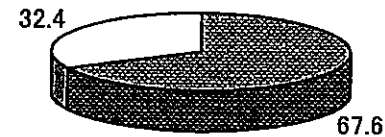
■ アジアの国々により親密な未来
□ アメリカにより親密な未来



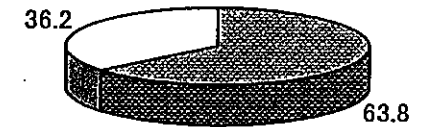
■ 三世代家族が多い未来
□ 核家族が多い未来



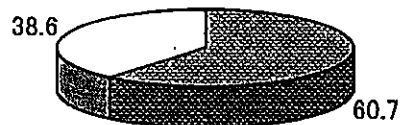
■ 若者が元気な未来
□ 高齢者が元気な未来



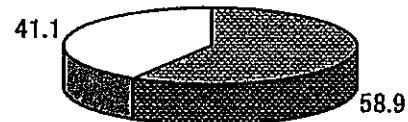
■ 地方が元気な未来
□ 東京が元気な未来



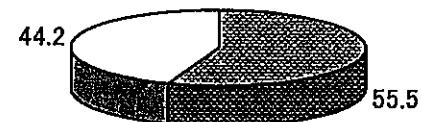
■ 家を買って住むことが常識の未来
□ 家を借りて住むことが常識の未来



■ 分配する未来
□ 競争する未来



■ 税金が高くても福祉が充実した未来
□ 福祉がほどほどでも税金が安い未来



■ 誰もがそこそこの生活ができる未来
□ 年収に格差があっても経済に活気のある未来